

おお大勝利

平成 24 年度山東サッカー部報第 21 号 (11 月 14 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

県新人1回戦 痛恨の逆転負け

11月3日(土)天童市のべにばなスポーツパーク第二運動広場(人工芝)にて県新人1回戦の鶴岡東戦が行われました。鶴岡東は、庄内の雄として名を馳せましたが、近年はその地位を羽黒に奪われ、雌伏の時を過ごしました。しかし徐々に捲土重来を期して力を付けてきているチーム。Y2リーグでは新庄東や日大Bに2勝しており、力がある！対する山東は、選手権で米沢中央に2-0で完敗を喫するなど、Y1所属チームの面影がもはやない(降格が決定しているの、いたしかたないとも言えますが)。鶴岡東はY2リーグにて、その米沢中央に1勝1敗と五分の力を見せており、総合的に考えても、厳しい戦いが予想される。

さて、序盤、山東ペース。派手な工夫もない攻撃ながら、FWが抜け出すシーンが多い。鶴岡東はDFラインが高い(DFラインを押し上げてくる)一方で、適切なバックステップが踏めていない(DFが縦のボールへの準備ができていない)ために、スピードのあるFWに弱い印象。恐らく、ポゼッション系の練習¹を多く積んでおり、「来ると思っていない」のでしょう。前半だけで決定的場面を複数回作るも、ネットを揺らしたのはコテッチャンの1度だけ。たびたびあったゴールチャンスをフイにし続けたことが、後々響いてくることに……。前半、時間を追うごとに鶴岡東のポゼッションの時間が増え押し込まれるが、決定的シーンは作らせず。

しかし、後半、ポゼッションを許すだけでなく、徐々に山東の選手の足が止まり、対

¹ 私が高校のときはボールキープの練習やキープゲームと言いましたが、最近のサッカー界は、より正しい英語を使う傾向にあり、ボールポゼッション ball possession (それも略してポゼッション) という用語を使用します。ボール保持のことです。**ボールポゼッションの練習は、(ゴールを目指すことよりも) ボールを奪われないことに主眼が置かれることが多いため、攻撃の最優先順位であるゴールに直結する攻防のフレーを鍛えることがどうしても疎かになりがちです(攻防のうち防が鍛えられないことに着目して下さい)**。ボールポゼッション率を高め、ショートパスやドリブルを駆使しながらゲームを支配する、スペイン風のチームカラーを採用するチームが全国的にも多くなってきますし、そういう流れを日本サッカー協会の技術委員会の方々も押し進めています。しかし、同じようなカラーのチームが多く排出されるデメリットとして、縦に速いカウンターを仕掛ける攻撃に対する対応力(守備力)が育たず、フル代表より下の世代では最近常に韓国のカウンターにやられています(ポゼッションサッカーが行き詰まったときにロングボール主体の攻撃への柔軟な切り替えができないという意味で、攻撃における対応力を欠けている、という「ユース教授」安藤さんのような議論も成り立ちます)。毎年2、3回、この部報にて日本の選手の育成の方針について私見を述べていますが、図らずも鶴岡東のディフェンスを見て、日本全体の問題を考えてしまいました。

して鶴岡東の攻撃が特に左サイド（山東から見て右サイド）から活性化し、シュートも打たれ始め、劣勢に立たされる。そんな中でも、前半同様に FW が抜け出すシーンがあるものの、GK との 1 対 1 を複数回外す。これでは勝てません。後半の後半、鶴東左サイド（山東から見て右サイド）から中央へのワンツースに付いて行けず、ドリブルに DF が軽い対応をし、同点ゴールを許す。足が止まっている山東に対して、鶴東は押し寄せ。同じ「東」でも勢いがまるで異なる。後半残り時間僅かなところで、またしても鶴東左サイド（山東から見て右サイド）から中央への攻撃の中からミドルシュートを許し、逆転。ほどなくしてタイムアップ。1 - 2 の痛恨の逆転負け。

前半 S 村顧問が、久しぶりに惜しいシーンの連続を見せる山東イレブンに昂奮してか、「今日は楽に行けるんじゃないか」的な発言をベンチにてした際に、齋藤 GK コーチが「いや、ゼロで終わる（抑えられる）気がしない」と反論し、スタッフ同士の「いさかい」が発生したのですが、残念ながら、齋藤コーチの感覚の方が勝っていたようです。鶴東は明くる日の山形城北戦でも同じように前半ペースを握らせる？ものの後半時間を追うごとに攻め立て、結局 PK 勝ちを収めました。後半だけ見たら相当力があると感じましたので、不思議なチームという印象を持ちました。逆に山東は、前半のペースを後半も維持できたなら良いんですけどね～。もちろん体力的な問題もあるでしょうが、それだけではないような気がします。**これで今季のチーム全体としての公式戦は終了（1 年生大会はありますが）。冬のトレーニングで来年皆様を驚かせられるように頑張りますので、また応援お願いします。ともかくも、今季、ありがとうございました。**

進学校大会 優勝は山南(の1年生)

11 月 10 日（土）11 日（日）上山の蔵王坊平の天然芝にて、第 3 回進学校大会（山交杯）が開かれました。これまで優勝チームが鶴南、山東とききましたが、結局今回は山形南となりました。**山南の皆さま、おめでとうございます！** ただですね、山南は修学旅行と日程が重なったため、1 年生だけのチームであり、そのチームを優勝させたというのは情けない。もちろん、山南の 1 年生は技術もさることながら、戦う気持ちでもすばらしいものがあり、優勝に値するチームでした。そのことに異論はありません。でもですね、**1・2 年生チームで臨んでいるその他のチームは、やはり、学年の違いを見せつけなければいけなかったはず**です。山東は、山南に敗れただけでなく、守備の崩壊により鶴南に大敗してしまいました。鶴南は今季 Y2 から降格し来季 Y3 で戦うチーム。県新人で日大山形をあと一步のところまで追いつめた実力派のチームですが、それはさておいて、Y2 を降格したチームに大敗するとは山東は Y1 からの降格を悲しんでいる場合ではないということか（いよいよ Y3 も見えてきたということか）。危機感を持たなければならぬでしょう。監督である今野も、渡邊前顧問から、離陸し高高度へとフライ

トする便に乗らせてもらっておきながら²、自分の不手際により今まさに着陸しようとしていることへの責任を感じています・・・。

ただ、不甲斐ないAチームに比べBチームは、分厚い攻撃とファインシュートの連続により成功体験を積むことができ、実りある大会となりました。チクテツの胸トラップからのボレーシュートやカツトのビューティフルロングシュート、ナラオカの技巧的なシュートは噂だけで観ていませんが、トラップで意図的に相手の頭上を超えるボールを出してからのユウダイのファインシュートは素晴らしかったな～。そう言えば、3月の山梨遠征における得点で褒められたのもユウダイでした。えこひいきしているわけではありませんが、クレバーなトラップからのシュート、好きだな～。骨折王ケッツンことO野も戦線に復帰し、Bチームは明るい材料にあふれていました！ Bを率いたのは怪我で離脱中のクサジマ監督。Bチームに帯同した齋藤GKコーチを、GK、FPでも起用する大胆采配など、雰囲気良くBをまとめていました。

それはそうと、来週末は1年生大会です。 昨年は今野の赴任以来、1年生大会初勝利を挙げ、3位となりました。今年はどうなることか。**応援よろしくお願いします。**

11月23日(金) VS 上山明新館 11:00～ @上山明新館G

これに勝つと

同日 VS 東海B or 山南B or 山本学園 14:10～ @同上

² 私が赴任した7年前、6月の県総体で準優勝しましたが、そのチームを作られたのは渡邊前顧問であります。それから好循環に恵まれましたが・・・。